



京都府立城陽養護学校 地域支援部「サポートJOYO」

1

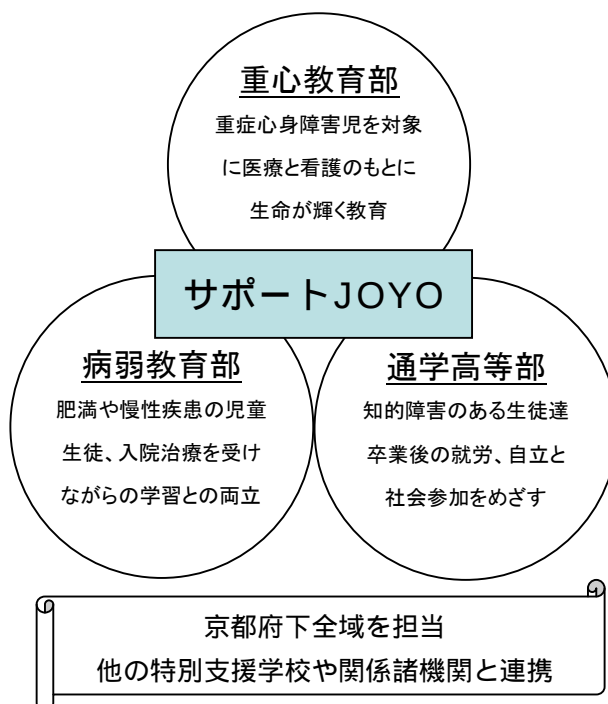
「サポートJOYO」の開設

「サポートJOYO」とは

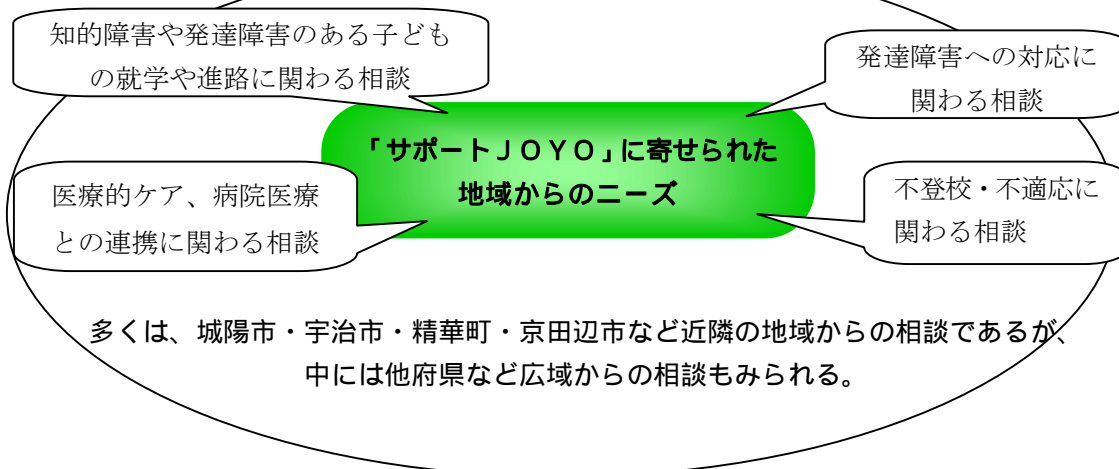
京都府立城陽養護学校では、平成19年4月より、地域支援センターとして地域支援部「サポートJOYO」を開設しました。

本校には特徴ある3つの教育部がおかれています。国立病院機構南京都病院に隣接し、医療と日常的に深い関わりを持ちながら、一方で、山城地域を中心に、府下全域や他府県にも及ぶ広い地域とのつながりを持った教育を行っています。

「サポートJOYO」では、こういった本校の特徴や、医療・地域とのつながりを生かした地域支援・地域連携を目指して、教育相談や研修支援などの活動を本格的に開始しました。



本校に寄せられた相談の傾向

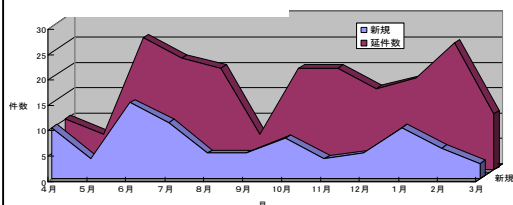


教育相談・地域支援の実施状況

～平成19年度 活動実績から～

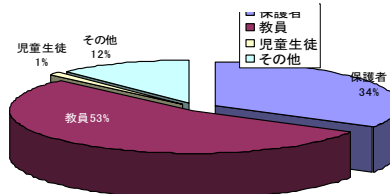
4月の開設以来、「サポートJOYO」には、地域の皆さんから子どもの教育や障害にかかわる相談が、多数寄せられました。その集計から、本校に寄せられた地域からのニーズをまとめてみました。3月末までの相談件数は、202件、うち新規相談は86件でした。

(1) 月別相談件数



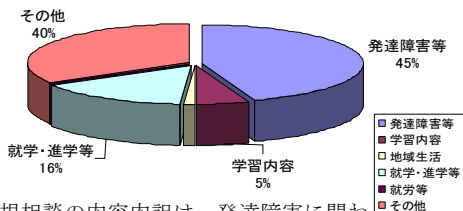
新規相談は毎月あり、20件以上の月が多くあった。1ケースで何回も相談が重ねられた場合や入院・転入、入学相談につながるケースもあった。

(2) 新規相談希望者の内訳



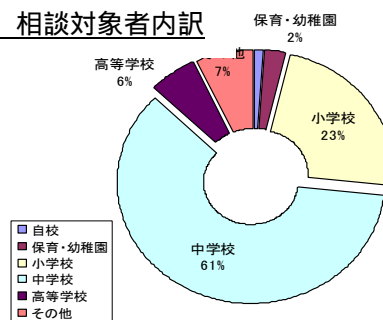
新規相談希望者の内訳は、教員からの相談が半数以上、次いで保護者であった。その他は、12件であるが、保護者の友人、市教委、家庭児童相談室、医師からなど多岐にわたっている。

(3) 主たる新規相談の内容について



新規相談の内容内訳は、発達障害に関わる相談が最も多く、その中に不登校事例が20件あった。次いで就学・進学の相談が16件あった。その他は、病気、医療に関すること等の相談があった。

(4) 相談対象者内訳



相談対象の内訳は、中学校が2/3で、次いで小学校、高校の順で、保育園・幼稚園からの相談もあった。

2

相談・支援の具体的事例

他機関との連携

医療との連携を生かした地域支援 —地域の研修会への本校教員の派遣—

1 日 時 平成19年8月30日（木）

2 場 所 京都府立舞鶴養護学校北吸分校（府立舞鶴こども療育センターに隣接）

3 内 容 「医療との連携と重心教育部の実践について」

今後の支援

重心教育部児童生徒の日常の様子や授業作りで大切にしていること、医療との連携について実践報告を行った。

- ・ 重度心身障害のある乳幼児や児童生徒（地域在住及び南京都病院しらうめ病棟に入院）を対象として —主に医療的ケアや医療との連携などをはじめとした支援—
- ・ 障害者への理解を深める資料として —重心教育部児童生徒の学校生活の様子をまとめた映像資料を地域に提供—

相談支援

ADHD/PDD で、身辺自立ができない生徒の事例

対象児童生徒	中学2年生	
主訴	学校	ADHD/PDD 生徒の指導について。身辺自立を促す指導方策について。
	保護者	子供に基本的生活習慣、社会のルールが身についていないこと。 将来に対しての不安を大きく感じていること。
実態	部屋の掃除、整頓ができない。排便の処理がうまくできず、入浴もしない。 盗癖・火遊びをするようになった。 好き嫌が多く、手作りの物は食べない。 一晩外で過ごしても平気である。本人の困り感はない。	
支援の経過	教育委員会・学校から依頼があり保護者が来校。学校、病院見学、父母の相談、 本人の行動観察を行う中で、サポート JOYO・在籍校コーディネーター・医師と 共にケース会議を持ち支援の方向性を出した。その結果、他機関につながることができた。	

不登校児童の事例

対象児童生徒	小学1年生	
主訴	不登校状態の対応や手だてについて	
実態	入学後1ヶ月で不登校。学校へ行こうとするが、校門から中に入ることができない。 場所や人へのこだわりがある。	
支援の経過	山城教育局管外の保護者から電話相談を受けた。在籍校との連携を望まれなかったが、 面談時、在籍校との連携についての必要性を説明し、保護者から在籍校に連絡された。 在籍校から依頼を受け、巡回教育相談・発達検査を実施。結果を基に、本児への効果的な支援について検討し、保護者や在籍校への支援を行う。 現在、時々欠席しながらも、一日2、3時間学校で過ごすようになっていく。	

研修支援

特別支援研修会の開催 「幼稚園から高等学校まで、250余名の参加」

- 日時 平成19年8月3日（金） 13時～16時
 - 会場 文化パーク城陽 ふれあいホール
 - 対象
 - ・山城教育局管内 幼稚園・小学校・中学校
 - ・山城通学圏の高等学校
 - ・山城地域の公立保育園 等教育関係職員
 - 内容
 - ◇基調報告 「特別支援教育元年をむかえて」
 - ◇本校各教育部実践発表 個に応じた指導・支援の追求
 - 【重心教育部】「児童生徒が学校生活をよりよく過ごせるために」
 - 【病弱教育部】「不登校児童生徒への支援について～Aさんの事例から～」
 - 【通学高等部】「社会自立に向けての支援について～B君の事例から～」
 - ◇パネルディスカッション
 - 「特別支援教育にかかわる課題をさぐって」
 - ～最近の児童生徒の様子から見えてくるもの～
- 〈コーディネーター〉 サポート JOYO 連携協力員 精神科医 有賀やよい先生
 〈アドバイザー〉 サポート JOYO 連携協力員 小児科医 徳永 修先生



様々なメディアを活用した情報共有

サポートJOYOだより



3 広域な地域と連携した「サポートJOYO」へ

これまでの成果と課題

「サポートJOYO」の組織体制を作り、教育相談や支援活動を進める中で、本校の教育や地域支援についての理解を広げることができ、同時に、本校に対する地域からのニーズをうけとめ、検討を進めることができました。

これからの課題としては、巡回相談チームの活用などの相談システムを充実することや、地域からのニーズに応えるべく、専門性の向上を目指して研修や研究を進めること、そして、地域との連携や協力のあり方について検討することなどをあげています。

今後の具体的な方向性

☆発達障害のある中学生への進路開拓、進路指導
☆知的障害のある青少年への就労支援、自立支援

三教育部の教育実践を生かした相談支援の充実

- ・医療との連携の継続と充実
- ・病気や肥満、不登校に関わる相談支援
- ・重度心身障害児の教育や生活についての相談支援
- ・進路・就労についての相談支援

専門性を生かし、ニーズに応える教育相談の実施

- ・巡回相談チームや校内外の人材の活用
『相談の輪の広がり』
- ・具体的な支援や手立てによる継続的な相談
『相談の質の深まり』

府全域への情報発信

- ・日常の実践と、地域からのニーズとのつながりを捉えた、情報提供
- ・研修会やホームページなどでの実践や研究の発表・紹介

在校生に対する教育相談や支援活動の充実

- ・入学相談、転出・入相談、進路相談、就労支援など
- ・教育相談、地域生活支援

卒業生のアフターケア、就労支援、生活支援もより丁寧に

広域な支援システム（地域ネットワーク）への参画

城陽養護学校の専門性を生かし、広域な地域との連携をもとにして、今後もなお一層、「サポートJOYO」の活動を模索し、充実していきます。